田植え後 30 日に中干し開始！

～異常気象に備えたコンパクトなイネづくり「適正籾数で登熟向上」！～

巻農業普及指導センター

【管理の重点ポイント】

①過剰生育の防止が主目的であるため、**中干しは開始時期が重要**
田植え後 30 日をめやすに、遅れずに開始（表１参照）

②中干しの程度は**田面に小ヒビが入るくらいまで**

③遅くとも出穂の**１か月前には中干しを終了し浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ**移行

１　中干し開始時期

○ 中干し開始適期

【 条間が見渡せる状態 】

× 適期を過ぎている

【 条間が見えにくい状態 】

表１　品種ごとの中干し開始適期

品　種	移植期	中干し開始適期		
		めやす	１株あたり茎数	㎡あたり茎数
コシヒカリ	５月３～５日	６月２～４日	(50 株植)　⇒　**16 本** (60 株植)　⇒　14 本	250 本
	５月 10 日	６月９日		
こしいぶき	５月３～５日	６月２～４日	(60 株植)　⇒　**18 本**	320 本
新之助	５月 11～15 日	６月５～９日*	(50 株植)　⇒　**18 本**	280 本

*新之助は田植え後 25 日頃が中干し開始の目安

２　中干し・溝切りのポイント

（１）適期に開始

・この時期の**茎数は１日で１株当たり１本増加**する。田植え後 25 日頃に茎数を確認し、開始予定日を予測する。予定日に茎数を再確認し、**開始目安の茎数になったら遅れずに中干しを開始**する（表１、上図参照）。

・６月中旬に用水が止まる地域では、田植え後 30 日で一旦中干しに入る。その後、用水が止まる前に一度灌水し、そのまま自然落水して再度中干しに入る。

・**溝切りは、８～10条ごと、深さは10cm以上**でしっかり切り、**末端を水尻に接続**する。

※中干し開始が遅れると…
　過剰生育・過剰籾数・倒伏を助長し、収量・品質の低下につながる。

（２）適度で終了

中干し程度は、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく状態まで

田面に大きなヒビが入ると干し過ぎ根の切断や発根が抑制される

〈中干しの終了時期が遅すぎると品質低下！〉
出穂１か月前までに中干しを終了する。中干し終了が遅れると品質低下になりやすい。

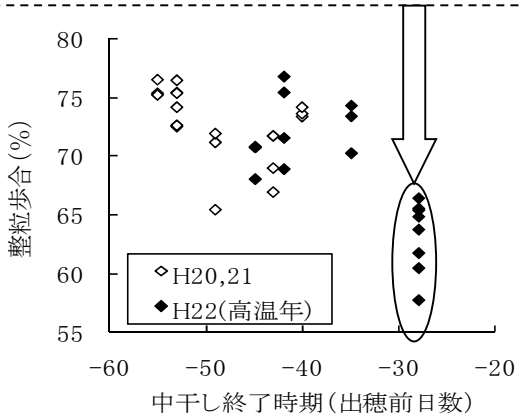

図１　中干し終了時期と整粒歩合
（H20～22、新潟県作物研究センター）

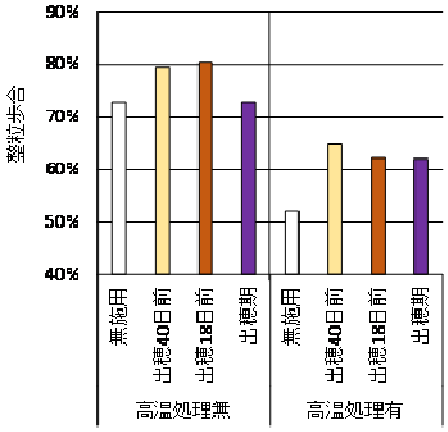

図２　ケイ酸追肥時期別の整粒歩合
（H28、新潟県農業総合研究所）

（３）　中干し後の水管理

中干し終了後は、浅水の間断灌水から徐々に飽水管理へ移行する。中干し後の長期湛水を避け、**飽水管理によりうわ根の発根促進や根の健全化**及び地耐力の維持を図る。

３　この時期の管理

（１）ケイ酸追肥（６月末～７月上旬）で品質向上

ケイ酸追肥は、高温時での「根の活力維持」「登熟向上」等の効果があり、**登熟期の高温による品質低下を軽減する効果**があるので（図２参照）、基肥に施用していない場合は積極的に施用する。

（２）カメムシ類による斑点米防止対策

ほ場周辺の雑草はカメムシの生息地となるため、定期的に草刈りを行う。特に、**６月中～下旬と７月中旬には、地域一斉での草刈り**を実施すると効果が高い。

（３）補植苗の処分

いもち病の発生源になるため、速やかに処分する。